文化と出会い、森に触れる。
ノリタケの森

デザインワーク 今・むかし

Noritake Design Work

Past and Present

期間：2016年9月6日（火）～2017年9月3日（日）

場　所

ノリタケの森クラフトセンター3階
ノリタケミュージアム（開館時間10時～17時）

休館日

月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）、年末年始

クラフトセンター入館料

大人及び学生	500円（団体割引有り）
高校生	300円（団体割引有り）
中学生以下の方	無料
障がい者手帳をお持ちの方、65歳以上の方は証明書の提示により	無料

文化と出会い、森に触う。ノリタケの森

デザインワーク 今・むかし

Noritake Design Work
Past and Present

ニューヨークのモリムラブラザーズ※に図案部（デザイン室）が設置されたのは1895年のこと。現地で顧客の嗜好をつかみ流行を取り入れて商品に反映させる、今では当たり前のことですが、当時としてはとても画期的な試みでした。

当初は、花瓶や飾り皿といった装飾品（ファンシーウェア）のデザインがほとんどでしたが、1904年に日本陶器合名会社（現ノリタケカンパニーリミテド）を創立し日本初のディナーセットが完成した後は、実用品である洋食器のデザインが中心となっていきます。

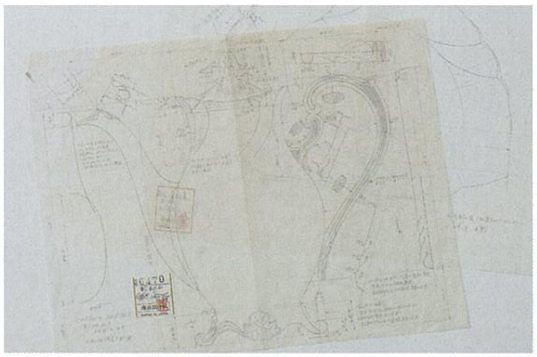
現在、食器のデザインワークは、シェープ（形状）・パターン（画柄）ともにその多くがデジタル化されていますが、以前は、図面・石膏によるモデル作製そして、水彩絵の具でのデザイン画まで、すべてデザイナーの手作業で行っていました。

1980年代から普及し始めたコンピューターは、ノリタケのデザイン室においても90年代初頭に本格的に導入され、その後10年あまりの間に急速にデジタル化が進みました。

現在は、専用ソフトを使いシェープの設計を行い、3Dプリンターでモデル作製ができるようになりました。また、パターンも、ラフスケッチから最終デザインまで、グラフィックソフトによるデジタルデータで製作され、そのまま転写紙として印刷が出来るようになり、大半の作業工程をコンピューターで行う事により、作業効率も大きく向上しています。

今回の展示では、食器のデザインがどのように描かれ商品化されていったのか、その作業の移り変わりとともに、ノリタケの歴史を物語る商品の一つひとつにこめられたデザイナーたちの想いを感じていただければ幸いです。

※後に日本陶器を設立する森村組の販売拠点



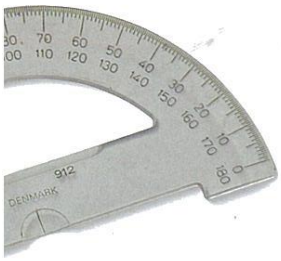
ノリタケの森クラフトセンター内　ノリタケミュージアム

〒451-8501 名古屋市西区則武新町三丁目1番36号
TEL052-561-7114［代］ FAX052-561-7276

交　　通：地下鉄東山線「亀島」駅下車2番出口より徒歩5分
JR名古屋駅～徒歩15分、名鉄栄生駅～徒歩15分

駐　車　場：有り

ホームページ：http://www.noritake.co.jp/mori/



産業観光・ナゴヤ　VEGETABLE OIL INK　Waterless Printing. Naturally.

デザインワーク 今・むかし

期間：2016年9月6日（火）～2017年9月3日（日）

デザインワークの流れ（ディナーセット新型新画の設計）

内はデザイナーの仕事

形状デザイン

昔（～1980年代頃まで）

- 商品企画 商品のイメージ コンセプトの確定
- **ラフスケッチ** スケッチで製品のイメージを可視化する（手作業）
- 選定
- **ラフ図面**
- **石膏モデル** 形状のイメージを確認し、形を調整する
- **最終図面作製 アイテム展開** 確定した石膏モデルを基に最終図面を作製しさまざまなアイテムの図面に展開する
- **成型試作課** 工場生産にむけた原型を製作

今（90年代から現在）

- 商品企画 商品のイメージ コンセプトの確定
- **ラフスケッチ** スケッチで製品のイメージを可視化する（手作業）
- PC データ化
- 3D プリンター
- PC データ化
- 見本作成 実際に使用して検証する
- **成型試作課** 工場生産にむけた原型を製作

画柄デザイン

昔（～1980年代頃まで）

- 商品企画 商品のイメージ コンセプトの確定
- **ラフスケッチ** 商品コンセプトに合った画柄を複数枚選定（手作業）
- **スケッチ** ラフスケッチを基に最終デザインを作製 採用デザイン候補を選定（手作業）
- 見本作製（見本課） 商品を決定するための会議用見本を手描きでつくる
- **採用デザイン決定**
- 画あたり（構図課） ディナー皿以外のアイテムへデザインを展開する

今（90年代から現在）

- **ラフスケッチ** 商品コンセプトに合った画柄を複数枚選定（手作業 PC）
- **スケッチ** ラフスケッチを基に最終デザインを作製 採用デザイン候補を選定（PC データ化）
- 見本作製（工場） 生産工場で見本をつくる
- **採用デザイン決定**
- 画あたり（工場）

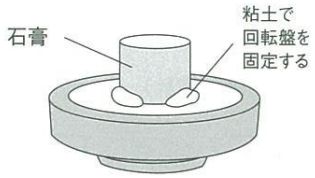
※ 解説にはノリタケ社内で使われる独自の用語が含まれています。

石膏モデルができるまで

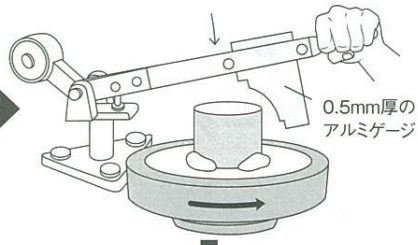
カップの胴部分をつくる

❶ ゴムで枠をつくり石膏を流し込む

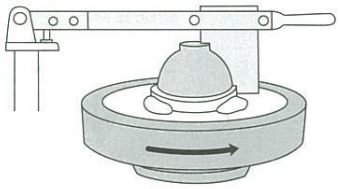
❷ 石膏が固まり始めたらゴム枠をはずす



❸ 回転盤をまわしゲージをおろす



❹ ゲージにそって石膏が削れる

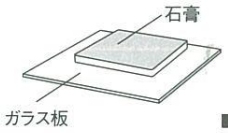


❺ 回転盤をまわし
「まがり※」で細かい形まで削り出す

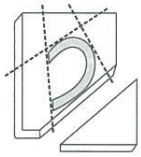
※石膏を削る道具

❻ カップの胴部分の完成

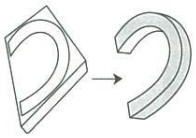
ハンドルをつくる



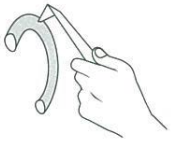
ガラス板に石膏を流し、ハンドルと同じ厚みの板をつくる



ハンドルのデザインを描き、余分な部分を切り取る



さらに余分な部分を切りおとし、大まかな形を切り出す

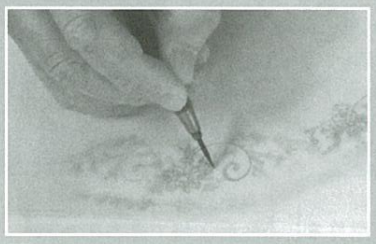


「まがり」を使って形を整える

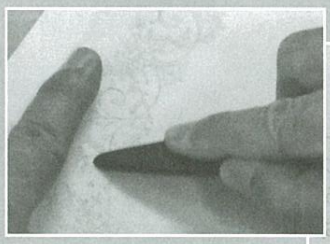
完成

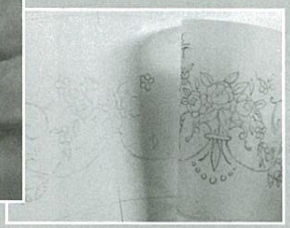
糊で貼りつけて石膏モデルの完成

パターンデザインができるまで



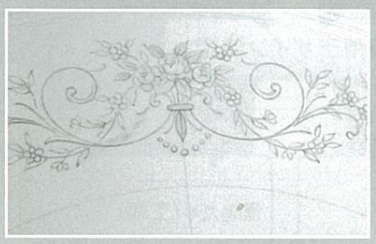
1 ラフスケッチを基に、鉛筆でトレーシングペーパーに画柄を描き、更に裏面からその線を正確に描き起こす
(裏描きする)





2 アタリ線を入れた紙に、1のトレーシングペーパーを合わせ、トレース棒でこすってトレーシングペーパーに描かれた画柄を紙に写す

3 写した画柄の輪郭線を水彩絵の具で描き起こす
(骨(こつが)描きという)



4 全体に薄く色をつけていく

5 徐々に色を重ねて画にめりはりをつけ、全体を整えていく

文化と出会い、森に触う。
ノリタケの森

ノリタケの森クラフトセンター内　ノリタケミュージアム

〒451-8501 名古屋市西区則武新町三丁目1番36号
TEL052-561-7114[代] FAX052-561-7276